

平成 25 年度第 1 回青森市子ども会議開催概要

- 1 日時 平成 25 年 6 月 9 日（日） 9 時～12 時
- 2 場所 青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）3 階 大会議室
- 3 出席者 平成 25 年度青森市子ども委員 26 名（欠席者 5 名）
平成 25 年度青森市子どもサポーター 5 名
市長、事務局 7 名
- 4 次第 (1)開会
(2)市長あいさつ
(3)子ども委員自己紹介
(4)子どもサポーター自己紹介
(5)事務局職員紹介
(6)今年度の活動内容説明
(7)子どもの権利に関する学習会①
(講師 青森市子どもの権利擁護委員 小林央美)
(8)閉会

5 会議概要

いよいよ、平成 25 年度の子ども会議が始まりました。

今年度の子ども会議には、小学生 2 名、中学生 25 名、高校生 4 名の合計 31 名の児童生徒が子ども委員として参加してくれました。

また、子ども委員の活動をサポートするため、大学生や社会人 5 名から、お兄さんお姉さんの存在の子どもサポーターとして御協力いただけることになりました。

今年度の子ども会議では、昨年 12 月に制定した「青森市子どもの権利条例」を普及啓発する活動と、子どもたち自身の身の回りの興味のあることについてテーマを決め、調べたり話し合いをしたうえで、こうしたほうがいい、このようにしてほしいという、子ども視点での意見を提案する活動を行うことにしています。

なお、活動テーマについては、今後、子どもたちに考えてもらうことにしています。

第 1 回会議は、まず市長のあいさつから始まりました。

市長あいさつ

おはようございます。

平成 25 年度第 1 回の子ども会議ということで、日曜日のお忙しいところ、参加いただきありがとうございます。

また、今年度の子ども委員に就任していただき、ありがとうございます。どうぞ、1 年間よろしく願いいたします。

今年度からは、昨年度の子ども委員の皆さんに作っていただいた子どもの権利条例に基づいて、この子ども会議をスタートすることになります。

皆さんには、子どもの権利条例を広めてい



ただきたいことと、子どもだけではなくて、子どもの目線から大人に、あるいは学校の先生にも子どもの権利について声を出していただければと思います。

この子ども会議は、子どもの意見を市政に反映させていく、市政に参加をする場として設置いたしました。そして、それをどうにかたちで皆さんの声を、青森市のすべての子どもの声を、市政に、青森のまちに反映させていけばいいのか、そのことも考えて、そして活動していただければと思います。

その方法のひとつの例えになりますが、子ども議会とかたちで、皆さんが議員になったつもりで、市の議事堂で、私市長とか部長とか教育長とかに意見を言いたいと、あるいは聞きたいということがあれば、市のほうでも対応していきたいと思っています。

そして、子どもたちのいろんな思いや悩みなど、例えばいじめや虐待、体罰などがない青森市のまちをつかっていくためには、こうしたらいいな、こうあってほしいなというような、いろんなことを話し合っていただければと思います。

また、皆さんの活動を手助けしていただけるサポーターの皆さんもいますので、サポーターの皆さんの助言などをいただきながら、この1年間楽しくやってください。

皆さん1人ひとりが、この子ども会議に来ることが楽しいと思えるものになればと思います。今回参加した31人全員が、新しい友達になればと思います。

それでは1年間、よろしく願いいたします。



続いて、今回、子ども委員として活動していただく子どもたちから、自己紹介と子ども委員としてやってみたいことを話していただきました。

子ども委員としてやってみたいこと

- ・青森市がいじめのないまちになるための話し合いをして、考えを深めて、視野を広げていきたい。
- ・いろんな学校の人たちと交流を深めて、自分の考えを深めていきたい。
- ・去年作った子どもの権利条例を、今年はいろんな人に広めていきたいと思う。
- ・子どもの権利条例については、よく知らないなので、そこをしっかり理解してから、考えを深めていきたい。
- ・今まで知る機会がなかった子どもの権利条例を知ることから始めて、青森市に少しでも貢献できたらと思っている。
- ・今回は、いろんな人と意見交換をできるだけ多くして、さまざまな活動を通して、子どもの権利条例をここだけのものにしないで、青森市民全員が知っているくらいにしたい。



- ・子ども会議のことも子どもの権利条例のことともあまり知らないなので、なるべくいろんな人の意見を聞いて、自分の意見を早く持てるようになりたい。
- ・子ども会議で環境問題のことで話し合ってみたい。青森市のごみ問題を改善していきたい。
- ・青森市の子どもたちに自由と幸せを与えたいと思う。
- ・昨年の活動を通して、青森市の子どもことや福祉のことに興味を持つきっかけになったので、はじめてこの会議に参加した人にも、そういうことを感じてもらいたいと思うし、自分ももっともっと知ることができたらと思っている。
- ・地域の活性化を中心に、いろんな活動をしていきたい。4月に修学旅行に行ったとき、浅草のシャッターに絵が描いてあったのを見て、新町などでもこういう取組ができたらいいなと思っている。



次に、今回、子ども委員の活動をサポートしていただく子どもサポーターから、自己紹介と抱負を話していただきました。

子どもサポーターの抱負

- ・子ども会議では、気負わず、楽に何でも話してもらえればと思う。あと、みんなが友達になれるような感じで、年上を年上と思わず声をかけてもらえれば。
- ・今回の活動を通して、条例のことをよく知らないという人も、青森市でやりたいということが見つかるくらい、徐々に知識を深めていきたい。
- ・昨年の経験を生かして、新規の子ども委員も加えて、みんなと楽しく新しいことに挑戦していけたらと思っている。
- ・大学で地域活性化やまちづくりについて学んでいる。子ども委員の皆さんの青森市に対する意見を聞けたらと思っている。



子ども委員と子どもサポーターの自己紹介が終わり、市長が子ども委員と子どもサポーター1人ひとりと握手をし、「では1年間、楽しく元気をお願いいたします。」とあいさつをして、次の仕事に向かうため会場を後にしました。



このあと、子ども会議の活動を運営していく市の事務局職員の紹介と、今年度の活動内容の説明を行いました。

子ども会議の活動に際し、事務局は、

“元気に、明るく、楽しく、休みの日に活動する子ども会議に行こう！”

をモットーに、今後の活動を運営していきます。

10分程度の休憩をはさみ、第1回会議の最後の活動となる子どもの権利に関する学習会を行いました。

学習会の講師は、子どもの権利条例に基づき、今年度から設置した「子どもの権利擁護委員」をお願いしている小林央美（こばやしひろみ）先生です。

小林先生は、現在、弘前大学の先生(准教授)ですが、かつて、小中学校で10年以上、保健室の先生として子どもたちのさまざまな悩みに耳を傾けてこられた方です。

小林先生の学習会は、第1回と次回第2回の会議でもお願いすることになっています。

学習会は、まず、子ども委員同士のコミュニケーションづくりから始まりました。



最初に子ども委員にやってもらった「偏愛ゲーム」は、まず、自分が好きなことを紙に書き、それをペアを組んだ相手に伝え、自分のことを知ってもらう(好きになってもらう)ものです。

次に、グループの中で、自分のペアになった人から自分のことを紹介してもらう「他己紹介」(たこしょうかい)をしました。

他己紹介では、子ども委員みんなが楽しみながら、時には大きな笑い声起きるなど、終始にぎやかな雰囲気でした。



続いて、机とイスを片付けて、子ども委員と子どもサポーター全員でひたすらじゃんけんをしたり、小林先生が命令したら、そのとおりに動かなければいけない「命令ゲーム」、"ののむら先生"という人がつくったという「ののつぶ物語」を読み、その中で「さい」「とら」という言葉が出てきたら、ペアを組んだ相手の手を挟み込む、というゲームをするなど、1時間をかけて、子ども委員同士、コミュニケーションづくりを行いました。



休憩をはさみ、学習会の後半では、子どもの権利に関する問題について、子ども委員1人ひとりが考え、その考えを各グループで話し合い、そして答えを取りまとめるといった活動を行いました。

小林先生からの問題は、前半、机とイスを片付ける際、みんなで移動するようお願いしたが、なぜそうしたのか、なぜやりたくない人はやらなくていいと言わなかったのか、その理由を考える、というものでした。



子ども委員の考え

- ・効率が悪いから。
- ・やりたくない人が多いと、作業がうまく進まず、次の作業がどんどん遅くなるから。
- ・早く終わらせるため。
- ・片付けることは、1人の問題ではない。
- ・1人ひとりに平等に作業させることで、やっている人の不満をなくす。
- ・みんな普通やるでしょ。
- ・不平等のことが起こると、働いた人がいやな気分になるから。



小林先生は、この問題を通して、自分の権利を守るということを学ぶにあたって、一定の社会のルールを守って迷惑をかけない範囲ということが大事だということをお話されていました。

以上で第1回会議は終わりました。

次回第2回では、引き続き、小林先生に講師をお願いし、子どもの権利に関する学習会の2回目を行う予定です。